

学校教育目標	「自ら学び 心豊かで たくましく生き抜く子供」	経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）「大崎上島町教育推進プラン」を推進し、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実現することで、「自ら学び、心豊かで、たくましく生きぬく」児童を育成する。（大崎上島の将来を担うたくましく生きる子供の育成） 【ビジョン】（学校の目指す姿）・自ら学び、創造力のある子供。思いやりの心を持ち、素直で明るい子供。進んで体をきたえ、ねばり強い子供、ふるさと（大崎上島）が大好きな子供を育てる学校 ・子供を大切にし、授業力の向上を目指し、個性を生かしながらチームで協働し、高め合う教職員 ・保護者や地域からこの学校に通わせてよかった、応援してよかったと思わせる学校
--------	-------------------------	--------------------	---

評価計画						自己評価					学校運営協議会委員	改善方策
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策 （こんなことをして達成します）	評価項目・指標 （効果をみとる目安）	目標値	達成値	達成度	評価	担当部 責任者	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力・豊かな心	児童の主體的な学びを創造する。	◎主體的・探究的に学習に取り組む態度を育成する。	○学習リーダー等を中心に、課題解決に向けて集中して学習に取り組ませる。	学期毎の児童の自己評価と教師評価	教師85% 児童85%	児童評価 聞<88% 話す94% 教師評価 100%	100%	A	教務研究部（須賀）（立田）	○授業の中で、考えを伝え合う場面を設定し、互いに学び合う学級づくりを行っている。自分の考えを説明する児童は多い。友だちの意見を聞いて友だちの意見につなげたり、友だちの意見と比較しながら自分の考えを述べたりする等、発達段階に応じて、考えを練り合う力を育成していかなければならない。	・自分の考えを言うことはすごいが、全員の児童が言えているのだろうか。	○高学年の複式授業を下学年が見に行き、よい伝え合いの場面を学ぶ機会を設ける。その授業からよい伝え合いを学び、授業で実践していけるよう取り組んでいく。 ○自分と友だちの意見を比べながら聞き、考えを述べることができるように指導し、互いに学び合う授業を目指す。 ○自分の考えが分かるよう、伝え方を工夫させ、ICTも活用した授業に取り組む。
		○各種学力調査の目標値を達成させる。	○少人数指導や複式学級の指導のよさを生かし、児童一人一人にきめ細かい指導を行う。	標準学力調査	全国平均 +5ポイント	全国学力学習状況調査 国語＋25P 算数＋17P 100%	100%	A	教務研究部（立田）	○国語科、算数科ともに、全国平均を大きく上回ることができた。少人数複式学級の授業で自分の考えをノートに書いたり発表したりしてきたことの積み重ねと考える。しかし、国語科では、自分の考えが伝わるように工夫して表現すること、算数科では、問題場面の数量関係を捉えて式に表すこと、計算に関して成り立つ性質を利用して求め方を式や言葉を用いて説明すること、立体の見取り図をかくことに課題がある。	○国語の話す単元において、自分の考えを述べるだけでなく、相手が何を求めているかを考えさせて、お互いのやり取りができるよう指導する。算数科では、数量の関係を図や口を使った式に表すこと、計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察すること、立体図形の構成要素の性質を操作活動を多く取り入れながら考えさせる。いずれも、低学年から段階を追って指導する。	
豊かな心・健やかな体	基本的生活習慣を確立する。	◎気持ちのよい挨拶や返事ができる。	○全校集会等で挨拶や返事のできている児童を肯定評価し、挨拶や返事の大切さについて認識させる。学期ごとのあいさつ名人を選出し、表彰する。	学期毎の児童の自己評価と教師評価	85%	児童評価88% 教師評価40%	児童評価104% 教師評価47%	児童A 教師D	保体生活部（須賀）	○全校集会で挨拶の意味について確認したり、挨拶や返事の大切さについて色々な場面で声掛けを行っている。朝の挨拶は良くなっているが、いつでもどこでも誰にでもあいさつをすることはできていない。このことが、児童評価と教師評価の大幅なずれにつながっていると考える。 ○1学期は挨拶名人が誰もいなかったので、2学期は選ばれるように継続的に指導していく必要がある。	・地域で出会った時に挨拶があまり返らなくなり、寂しく感じることがある。照れもあるのかもしれない。	○いつでもどこでも誰にでもあいさつをすることができるように、日ごろから全職員との共通理解のもと、その都度声掛けを行っていくようにする。 ○挨拶の意味や挨拶の効果についても継続して意識づけるようにする。
		○「早寝・早起き・朝ごはん」を定着させる。	○家庭と連携しながら、生活チェック点検を通して定着させる。	児童の自己評価	80%	児童評価83%	104%	A	保体生活部（大政）	○生活チェックカードの実施により、寝るまでの時間の使い方に課題があり、ゲームや動画視聴など保護者も困っている実態があることが分かった。児童への指導を行うとともに、保健だより等による家庭への啓発や連携が必要である。	・ゲームの時間については、研修会で親子で一緒に考える機会をもってみてはどうか。平日だと保護者がなかなか参加できにくいと思うので、設定に工夫が必要かもしれない。	○生活チェックカードの取組ではそれぞれに合った目標設定をさせ、親子での振り返りを継続していく。またネットに関する指導ではわかりやすい内容を工夫し、繰り返し指導をしていく。親子での研修会についても考えていく。
	体力づくりを推進する。	◎運動の機会を増やし、目標を持たせて体力の向上を図る。	○児童一人ひとりが具体的目標設定し、意欲を高める。	目標を達成できた児童の割合	児童85%	児童評価94% 教師評価83%	児童評価110% 教師評価97%	児童A 教師B	保体生活部（上川）	○体育的行事や日頃の運動において一人一人が目標を設定し、達成に向けて体育の授業のみならず、休憩時間等を活用して運動に取り組むことができた。しかし、目標の具体性に欠けている部分があることが教師評価が低いことにつながっていると考えられる。 ○より具体的な目標を持たせることや日々達成度をチェックできるような工夫が必要である。		○これまでの記録や全国平均値を見て、今年度の具体的な目標を決めさせる。各学年に合わせたワークシートを用意し、その目標達成に向けてハッスルタイムや体育の毎時間ごとに達成度をチェックできるようにする。行事後は、自分の取組を振り返ることができるようにする。
信頼される学校	学校や地域を誇りに思う児童を育成する。	◎「大崎上島学」を推進する。	○ふるさと「大崎上島町」の学習を通して、地域を誇りに思う児童を育成する。 ○地域の人材・自然・文化・伝統などを「島まるごと教材」として教育内容に位置づけ、活動を行う。	学期毎の・児童の自己評価・教師評価・年3回以上実施する	児童90% 教師100%	児童評価100% 教師評価83%	児童評価111% 教師評価83%	児童A 教師B	教務研究部（望月）	○児童は大崎上島や木江の好きなところをみつけ、文章できちんと答えることができている。 ○毎年内容が異なる新たな教材の発掘を行っている。 ○いろいろな方をゲストティーチャーとしてお招きし話を聞いたり、校外学習で見学や交流を行ったりして「大崎上島」の魅力を探ることができている。		○今後も児童の興味や関心を大事にし、大崎上島の魅力を探っていけるよう、見通しをもって単元を構成していく。 ○計画的・効果的に校外学習やゲストティーチャーを設定し、児童の興味関心を高めていく。 ○各学年のK授業の発表に向け、引き続き取り組んでいく。
	児童の主體的な活動を創造する。	◎異学年交流活動に主体的に取り組む。	○異学年交流活動の機会を増やし、主体的により良い人間関係をつくろうとする児童を育成する。	学期毎の児童の自己評価と教師評価	教師90% 児童90%	教師評価100% 児童評価100%	教師評価111% 児童評価111%	A	教務研究部（望月）	○全学年、全学級異学年間（隣接学年含む）での交流活動を行った。（たて割り班活動、朝会等） ○児童会役員が計画した「全校遊び」等の活動を行った。（月2回程度）	・幼稚園児が太鼓の練習を参観し、大変喜んでいった。参観した教員から児童が一生涯演奏していたこと、上の学年がリーダーとして声かけができていたことを聞いた。普段の授業からそのような関わりができているのだと思う。	○指導者と児童と一緒に授業参観を行う機会を増やしていく。 ○児童会役員が、企画運営する全校遊びを継続して行う。
	開かれた学校づくりに努める。	○積極的な情報発信を行う。	○情報公開を積極的に行う。ホームページの更新、学校だより、学年だより、保健だより等適宜発信する。	月1回以上発信する。	教師100%	教師100%	教師100%	A	教務研究部（望月）	○定期的に学級だより、保健だより、学校だよりを発行できた。 ○ホームページの「児童・保護者用」のページに、行事や学習の様子を掲載し更新できた。		○今後もホームページの掲載内容を、計画的に更新していく。 ○画像等を掲載し、児童の活動内容が保護者に伝わるような学級通信等を作成していく。
	連携教育を充実させる。	○幼・小・中で、連携教育を推進する。	○学習内容や行事を工夫し、園児・児童と一緒に活動させる。小・中連携においては、幼小中連携教育部会で情報交流をする。	学期に1回以上実施する	教師100%	教師100%	教師100%	A	教務研究部（望月）	○小中連携においては、大崎上島町連携教育部会、各学年部会で「大崎上島学」に関わる内容について交流を行うことができた（2回）。 ○中学校の先生方が授業研に來られ一緒に研修することができた。 ○夏休みに、町内の6年生と中学1年生合同で權伝馬体験を行った。	・異学年交流ができているのはよいと思う。中学に進学して自分がしっかり出せているだろうか。	○引き続き校内授業研へ中学校の先生方も参加していただき、一緒に研修を進めていく。 ○12月に行われるK授業で、お互いの学びを共有していく。 ○引き続き全校遊びに幼稚園児を招き活動していく。また、持久走大会も合同で行う。
	業務改善を図る。	○児童と向き合う時間を確保し、長時間勤務の減少を図る。	○業務の進め方の改善を図る。 ○個別業務の精選・省力化の工夫を図る。	教師評価	教師80%	教師100%	教師125%	A	教務研究部（教頭）	○時間外在校時間が月45時間を超える職員が4月と5月に2人いたが、6月から9月まではいない。4～6月と9月の時間外在校時間の平均は、33時間である。各自が退校時刻を意識し、業務内容を見直しをもって行った結果と考えられる。 ○学期末に5日程度、児童一斉15時下校を設定することにより、学期末整理をゆとりをもって行うことができた。	・仕事については、先生方個々のペースがあると思うが、働き方改革については、ぜひ進めてほしいと思う。	○校務支援システムの導入に向け、ICTを有効活用していけるように計画的に準備を進める。 ○今後も学期末整理日を早めに行事予定に入れることで実施できるようにする。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【自己評価】
A：100≦（目標達成） B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80 D：（できていない）＜60